

完全オフライン型 医療データ変換システム

# K-Brain Switch

医療収益 DX パンフレット



院内データを、外部へ丸投げしない

院内で変換・整理し、AI や人に相談しやすい分析材料へ

## 統一メッセージ

現場に依存する経営から、データで現場を守る経営へ  
外部専門家と対立するのではなく、同じデータで話せる状態を院内に作ります。

作成：合同会社 K-Brain

# 第1章

## 目的

- AI 活用の前提を整える -



K-Brain Switch は、医療機関・薬局・介護施設の院内で作成された保険請求データを活用するための分析基盤づくりを支援する仕組みです。

医療経営コンサル、社労士、会計士、外部支援者を否定するためのシステムではありません。経営者・管理者・現場職員・外部専門家が、共通の分析材料をもとに相談できる状態を作ることを目的としています。

K-Brain Switch が目指すこと	大切にしている考え方
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 請求後に眠りがちなデータを整理する</li><li>・ 経営改善・業務改善の検討材料にする</li><li>・ 院内外で同じ材料を見ながら相談できる状態を作る</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ AI は最終判断者ではありません</li><li>・ AI 回答は参考情報として扱います</li><li>・ 最終判断・確認・実行責任は施設側にあります</li></ul>

# 第2章

## K-Brain Switch の本質

- 院内データを院内の分析基盤へ -



院内ローカル環境で変換処理を行い、AI や人による分析・確認に活用しやすい形式へ変換する仕組みです。データを外部へ丸投げするのではなく、まず院内で整理し、経営改善の入口を作ります。

導入前に起こりやすいこと	導入後に目指す状態
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 保険請求データが請求後に眠っている</li><li>・ 経営会議で使える形に整っていない</li><li>・ AI に直接入れるには確認が必要</li><li>・ 外部専門家とも共通資料が作りにくい</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 院内で変換して安全確認しやすくする</li><li>・ 分析しやすい形式へ整理する</li><li>・ AI に相談しやすい材料を作る</li><li>・ 同じ資料で院内外の相談を進めやすくする</li></ul>

整理される主な価値
保険請求データを請求後に眠らせず、経営資産として活用しやすくします。算定候補、業務負担、部門別傾向などを確認しやすくし、データに基づく会議や改善検討を進めやすくします。

# 第3章

## 匿名化は名前を消すだけではありません

- コメント欄・自由記載欄への配慮 -



コメント欄・自由記載欄は、個人を推測できる情報が入りやすい領域です。氏名、住所、患者番号、被保険者番号、カルテ番号などの直接識別情報だけでなく、再識別リスクを生みうる周辺情報にも注意が必要です。

- ・ 希少疾患、少数症例、特殊な処置、特殊薬剤
- ・ 特定時期の入退院、特定部署でのみ発生した事例
- ・ 家族状況、地域、職業、担当者名などの周辺情報
- ・ 件数が少なく、施設内で関係者が推測できる情報

### 重要な注意点

匿名化・除外・要約・集計はリスク低減策であり、完全安全や完全匿名化を保証するものではありません。AIへ入力する前には、個人や施設が推測される可能性が残っていないかを確認する必要があります。

# 第4章

## 院内オフライン処理による安心設計

- 外部送信を前提にしない前処理 -



K-Brain Switch は、院内ローカル環境で変換処理が完結する設計です。保険請求データを外部へ丸投げせず、まず院内で変換処理を行い、分析しやすい形へ整えます。

### K-Brain 側の取扱い

K-Brain は、原則として保険請求データ、患者情報、利用者情報を受領・保管しません。また、外部 AI サービス等への入力、送信、保存、アップロードを代行しません。

院内 PC で前処理を行うことで、外部 AI に相談する前の安全確認と材料整理を行いやすくします。

# 第5章

## 外部専門家と対立しない

- 同じデータで相談できる状態へ -



K-Brain Switch は、医療経営コンサルや外部支援者を不要にするための仕組みではありません。院内に分析基盤を整えることで、外部専門家ともより具体的な相談ができる状態を作ることを目指します。

- ・ 初期分析に必要なデータ整理の負担を軽減しやすくなる
- ・ 顧問先・支援先の状況を把握するための共通資料を作りやすくなる
- ・ 経験や勘だけでなく、データに基づいた提案がしやすくなる
- ・ 院内担当者との会話が具体的になり、DX・人材育成・業務改善へ展開しやすくなる

# 第6章

## 制度改定に追従する保守・更新設計

- 常に最新版で使い続けるために -



診療報酬改定、調剤報酬改定、介護報酬改定、薬価改定、関連マスタ改定などにより、解析条件は変わります。医療・調剤・介護領域で継続して活用するためには、制度改定に合わせた更新確認が必要です。

### 保守契約の価値

保守契約により、解析条件に影響する制度改定・マスタ改定に合わせて、最新版 EXE、更新後ライセンス、最新マスタ対応版の提供を受けられる設計とします。旧条件のまま分析を継続しないことは、利用制限ではなく、誤った前提で分析結果を使わないための安全設計です。

対象領域	更新確認が必要となる主な契機
医療機関	診療報酬改定、薬価改定、診療行為マスタ、薬価マスタ等
調剤薬局	調剤報酬改定、薬価改定、薬価マスタ、医薬品関連マスタ等
介護施設・介護事業所	介護報酬改定、介護サービスコード、介護給付費単位数表等

# 第7章

## 契約施設内で広がるデータ活用

- 部門ごとに異なる問いを、同じ分析材料から考える -



K-Brain Switch で作成した分析用データは、契約施設内において、経営会議、部門会議、医事課確認、現場改善、教育・研究の検討材料として活用しやすくなります。

経営者、事務長、医事課、リハビリ部門、看護部、薬剤部、研究・教育担当、外部専門家では、同じ保険請求データから知りたい内容が異なります。共通の分析材料があれば、会議や相談はより具体的に なります。

院内で広がる活用例	研究・外部連携への展開
<ul style="list-style-type: none"><li>・ 経営者：収益傾向、部門別構造、改善余地</li><li>・ 医事課：算定確認、請求傾向、会議資料</li><li>・ 現場部門：疾患傾向、業務負担、提供体制の確認</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 研究・教育：疾患傾向、患者構成、院内発表の材料</li><li>・ 外部専門家：顧問先支援、経営会議支援、改善提案</li><li>・ 部署ごとの問いを、同じ材料から整理しやすくする</li></ul>

### 利用範囲に関する注意

USB、EXE、license.dat のコピー・再配布・他施設利用はできません。一方で、適法に作成された出力資料は、契約施設内の内部規程・権限管理・契約条件の範囲で、会議資料・確認資料として共有・複製して活用できる設計とします。

# 第 8 章

## 医療収益 DX プログラム

- 変換だけで終わらせない -

区分	位置づけ	主な内容	適した用途
無償評価 USB	導入検討・院内 評価	施設固定済みの評価環境で、変換処理や分析素材化の流れを確認。	院内評価、稟議準備、導入検討
1 回版	DX 版を一度体験	自施設データをもとに、改善の見え方や AI 相談材料の作り方を 1 回体験。	DX 版の価値確認、単発の体験
DX 版	通常導入の中心	匿名化、AI 活用、読み解き支援、運用設計、AI プロデューサー育成までを含む。	継続運用、院内改善、経営会議活用
Basic	補助的・個別相談	変換・整理を中心としたシンプル構成。分析・運用は自法人主導で進める前提。	自社分析体制を持つ法人、追加施設、専門事業者向け

通常導入は、匿名化、AI 活用、読み解き支援、運用設計、AI プロデューサー育成までを含む DX 版を中心に設計します。K-Brain Switch の価値は、データを変換することだけではありません。変換後のデータをどのように読み、どのように AI へ一般化して相談し、どのように現場改善へつなげるかが重要です。

### 補足

Basic は「ただ変換するツール」です。1 回版は「DX 版を一回だけ使用できるようにしたプログラム」を指し、DX 版とは位置づけが異なります。Basic は補助的・個別相談の位置づけとし、通常導入は DX 版を中心にご案内します。

# 第9章

## AIプロデューサー育成

- AIを使ってよい状態を判断する人材へ -



作成されたデータは、活用して初めて真価を発揮します。AIプロデューサーは、現場課題をAIに相談できる形へ整理し、得られた結果を業務改善・経営改善の材料へ変換する役割を担います。

- ・ 個人情報や個人推測情報が残っていないか確認できる
- ・ コメント欄・自由記載欄の危険性を説明できる
- ・ 個別事例をそのままAIに入れず、一般化して質問できる
- ・ 制度改定・マスタ改定時に更新確認の必要性を判断できる
- ・ AI回答を最終判断とせず、人的確認へつなげられる

# 第 10 章

## 読者限定のご案内

- 自院のデータを、AI に相談できる形へ -



導入検討・院内評価・稟議資料作成を目的とした、施設固定済みの無償評価 USB をご用意しています。

<b>1</b> <b>無償評価 USB</b> 導入検討・院内評価	<b>2</b> <b>1 回版</b> DX 版の価値を一度体験	<b>3</b> <b>DX 版</b> 継続的な活用と運用設計	<b>4</b> <b>継続支援</b> AI プロデューサー育成・定着化
--	---	--	---

### 無償評価 USB の重要な注意点

無償評価 USB は、自由利用可能な無料ソフトではありません。評価目的限定の無償利用許諾です。継続利用、本番運用、コピー、再配布、他施設利用はできません。

### ご案内

実際に継続運用する場合には、制度改定への対応、匿名化ルール、AI 活用ガイドライン、運用支援が必要になります。詳細は合同会社 K-Brain までお問い合わせください。

※ K-Brain Switch は、増収保証、査定回避保証、返戻防止保証、完全匿名化保証、完全安全保証を行うものではありません。AI 回答は参考情報であり、最終判断は施設側の責任で行ってください。